

2013.8.7

ロシアの結婚指輪について
青木千里さんより

ロシアの指輪についてはロシア語のサイトをいくつか当たって適当な箇所を和訳してみました。(AからC)
Dについては個人的な見解が入っています。

A)大半の西側諸国では左手が(生理学的に)心臓により近いという理由で結婚指輪を左手に嵌めているが、ロシアでは右手である。というのは、めて(右手のこと、古語)は正しく善き行いのシンボルだからである。

婚姻の契りに際してのお祈りでこう語られる

「そして汝、しもべのめては汝の堂々たる言葉と汝の崇高なる手(権力の象徴としての手)によって十字を切り祝福を得る」

結婚指輪が右手の指に委ねられるのは必然である。

なぜなら右手で信仰の誓いを立て、十字を切り、祈りの言葉を唱えて祝福し、敬礼もすれば、

労働の道具や正義の戦では剣を持つからである。

B)ロシアでは結婚指輪を右手の指に嵌めているが、他の多くの国では左手の薬指にはめて

いる。

右手は左手よりもはるかに高いステータスを備えているという言い伝えがある。

極論するなら、この見解は何よりも大半の人が右利きであるという理由に起因すると言えよう。

あらゆる基本的な仕事を右手でこなす人々が右手をより重要とみなすのはごく当たり前である。

C)ロシアで教会結婚式に指輪交換の儀式が組み込まれたのは1755年ことに過ぎない。宗務院が結婚式と指輪交換による契りの儀式を一つにしたのだ。それまでは指輪交換は両家の父親同士が行う婚約儀礼である手打ち(婚約披露)の一部であった。

D)ロシア正教会のサイトでは結婚指輪は新郎には金、新婦には銀を推奨しているところも

ある、金は太陽を、銀は月を表し、一対とみなしている。
が、実際には2つとも同素材、殆ど金が多い。

昭和初期のべっ甲資料
青木千里さんより

長崎の川口鼈甲店の HP に紹介されている昭和8年発行の「美術鼈甲工芸品解攬」という書物です。著者は当時の長崎鼈甲商工組合長 垣立鼈甲店店主 垣立寅蔵。ページ下方の目次からそれぞれの項目に移れます。

http://www.geocities.jp/hmkwg/new_page_39.htm

ジュエリー文化史研究会
<http://www.j-bunka.jp/>

このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。
返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。
日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com
幹事戸倉博之 spina@precious-chroma.com